Press Release

2018 年 6 月 25 日

コベストロジャパン株式会社

「国際環境シンポジウム 2018 in 大阪」で特別講演

コベストロ、貴重なプラスチックの有効活用をグローバルで推進

- サスティナビリティは企業戦略の基軸
- 2018 年世界環境デーのテーマである「プラスチック汚染をなくそう(Beat Plastic Pollution)」に対する取り組みを紹介
- 国際社会共通の目標「持続可能な開発目標（SDGs）」に包括的なアプローチ

素材メーカーのコベストロは、6 月 23 日、24 日に大阪市が国連環境計画（UNEP）国際環境技術センター（IETC）と連携して開催した「国際環境シンポジウム 2018 in 大阪」に参加し、特別講演を行いました。シンポジウムでは 2018 年世界環境デーのテーマであるプラスチック汚染について、また環境と経済の両立といった持続可能な開発目標（SDGs）の考え方について理解を深め SDGs の達成に向けて私たちができる具体的な取り組みについて考えられました。

「多くのプラスチックごみが海洋に流出し、世界的な問題になっています。プラスチックは貴重な材料です。投棄するのではなく、有効活用しなくてはなりません。常にサスティナビリティを意識した考え方や行動によって、美しい地球を守り、世界中の何百万人もの人々の生活の質を向上することができるのです」とサイエンスフェローの浦野淳司は特別講演で述べました。

コベストロでは 2010 年から欧州プラスチック工業会のイニシアチブ「ゼロ・ペレット・ロス」をサポートし、生産工程におけるマイクロプラスチック流出防止を目標とした社内キャンペーンを始めました。さらに 2015 年にはグローバルイニシアチブ「オペレーション・クリーン・スイー

プ」協定に署名しました。生産工程だけでなくバリューチェーン全体へと視点を拡大し、下流のサプライチェーンやロジスティックス業者に対してペレットの海洋流入防止トレーニングの実施も始めました。この活動は、SDGs の「目標 14　海の豊かさを守ろう」として、海洋と沿岸の生態系を持続可能な形で管理し、陸上活動に由来する汚染から守ることに貢献します。

　コベストロは、サスティナビリティを戦略の基軸に置き、SDG s を達成するために包括的な取り組みを推進しています。これまでにも自動車の軽量化や建物の断熱性向上に貢献する材料やソリューションを提供し、資源の保全や CO2 削減など地球が直面する課題に貢献してきました。さらに、バイオベースや CO2 を有効利用した原料の開発も推進しています。また、UNEP のイニシアチブ『Young Champions of the Earth』を後援し、環境保全のためのアイデアを持つ若者たちを支援する活動を行っています。コベストロは引き続き、サスティナビリティに焦点を当てたイノベーションを通じて、世界を明るくより良い場所にしていくことを目指します。

コベストロ社について

コベストロ社は 2017 年売上高が 141 億ユーロの世界最大のポリマー製造企業のひとつです。主たる活動分野は、高機能ポリマー材料の生産、および日常生活の多くの分野で使用されている製品の革新的ソリューションの開発です。主要な顧客は、自動車、建築、木材加工や家具、電気・電子、スポーツ・レジャー、コスメティック、ヘルス、そして化学の各産業です。コベストロ社は、世界中の 30 拠点に生産施設があり、社員数は 2017 年末で約 16,200 人です。詳しくはこちらをご覧ください。covestro.jp

【この件に関するお問い合わせ先】

コベストロジャパン株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園 1-7-6 クロスプレイス浜松町 7F

広報部 梅澤　Tel:03-6403-9112 / Fax:03-3436-1540

将来予想に関する記述 （Forward-Looking Statements）

このニュースリリースには、コベストロ社による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 （Forward-Looking Statements） が含まれている可能性があります。さまざまな既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因にはコベストロのウェブサイト（www.covestro.com）に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。コベストロは、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負うものではありません。